

2018年度第2四半期決算の概要

(2018年4月1日～2018年9月30日)

ご説明資料



“特殊”だけど“身近”な「特殊鋼」



山陽特殊製鋼株式会社



2018年11月16日



<http://www.sanyo-steel.co.jp>

目次

1. 2018年度第2四半期決算の概況

損益の概要

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因

(2017FY上→2018FY上、2017FY下→2018FY上、2018FY1Q→2018FY2Q)

セグメント別損益、セグメント別損益推移(四半期)

貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

D/Eの推移

(参考)設備投資・減価償却費の推移

2. 2018年度業績予想等

2018FY業績予想

配当について

経常利益の変化要因

(2018FY上期実績→2018FY下期予想)

3. 参考資料

財務指標の推移

その他のトピックス

損益の概要

(単位:億円)

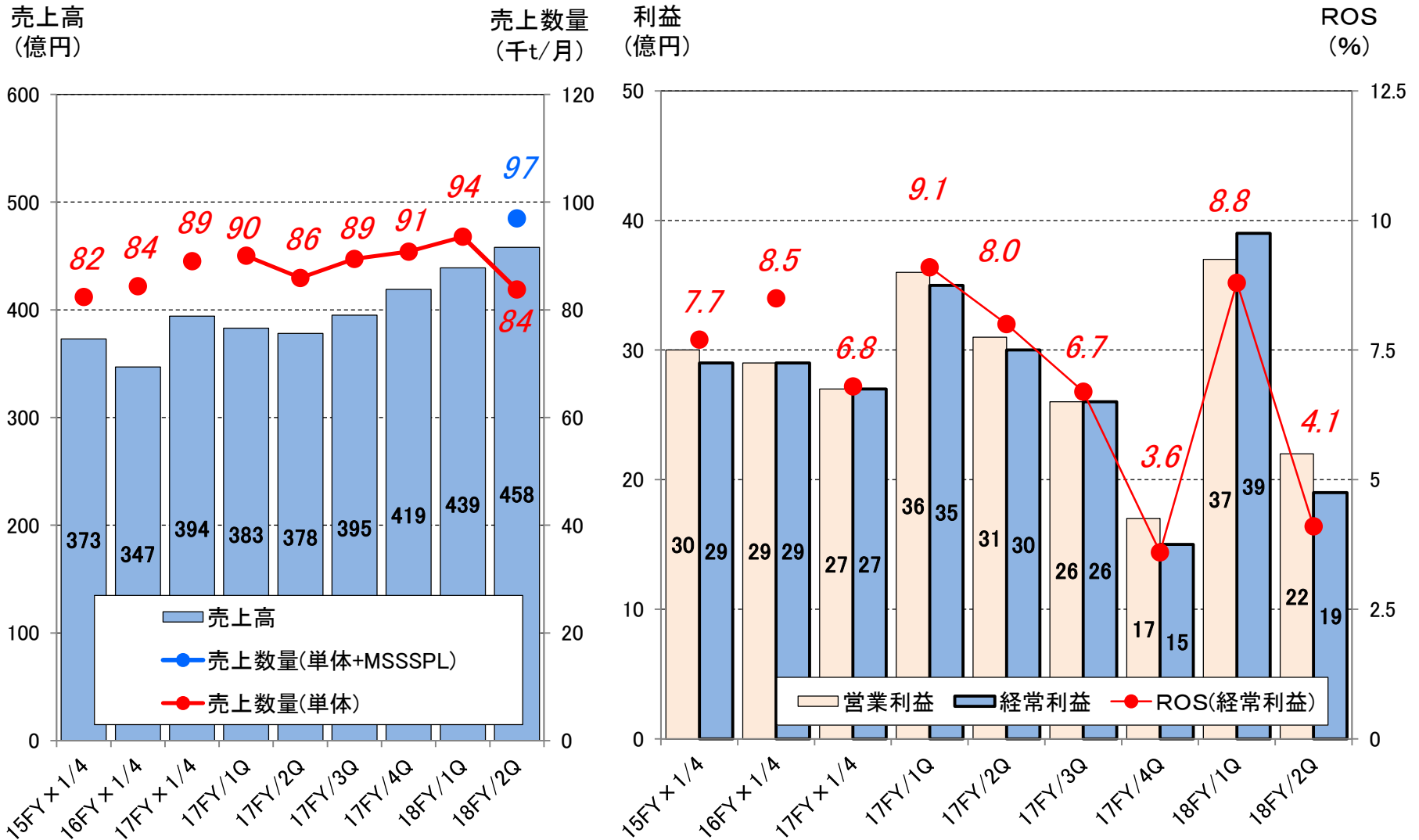
	2018FY上期 (A)		2017FY上期 (B)		対前年同期 (A)-(B)		2018FY上期 予想(注1)	
	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)	金額	売上高 比率(%)
売上数量 (単体+MSSSPL) (千t/月)	95.2		88.0		+7.2		98.0	
(内 単体)	88.6		88.0		+0.6		91.5	
売上高	897	100.0	761	100.0	+137	+18.0	900	100.0
営業利益	58	6.5	66	8.7	-8	-11.9	55	6.1
経常利益	57	ROS 6.4	65	ROS 8.6	-8	-11.6	55	ROS 6.1
純利益(注2)	51	5.6	43	5.6	+8	+18.8	50	5.6

(注1) 2018年8月2日(第1四半期決算発表日)開示の予想値

(注2) 親会社株主に帰属する四半期純利益。2018FY上期には、2018年6月のインドのMahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.

(MSSSPL) 連結子会社化にともなう段階取得に係る差益15億円を含む。

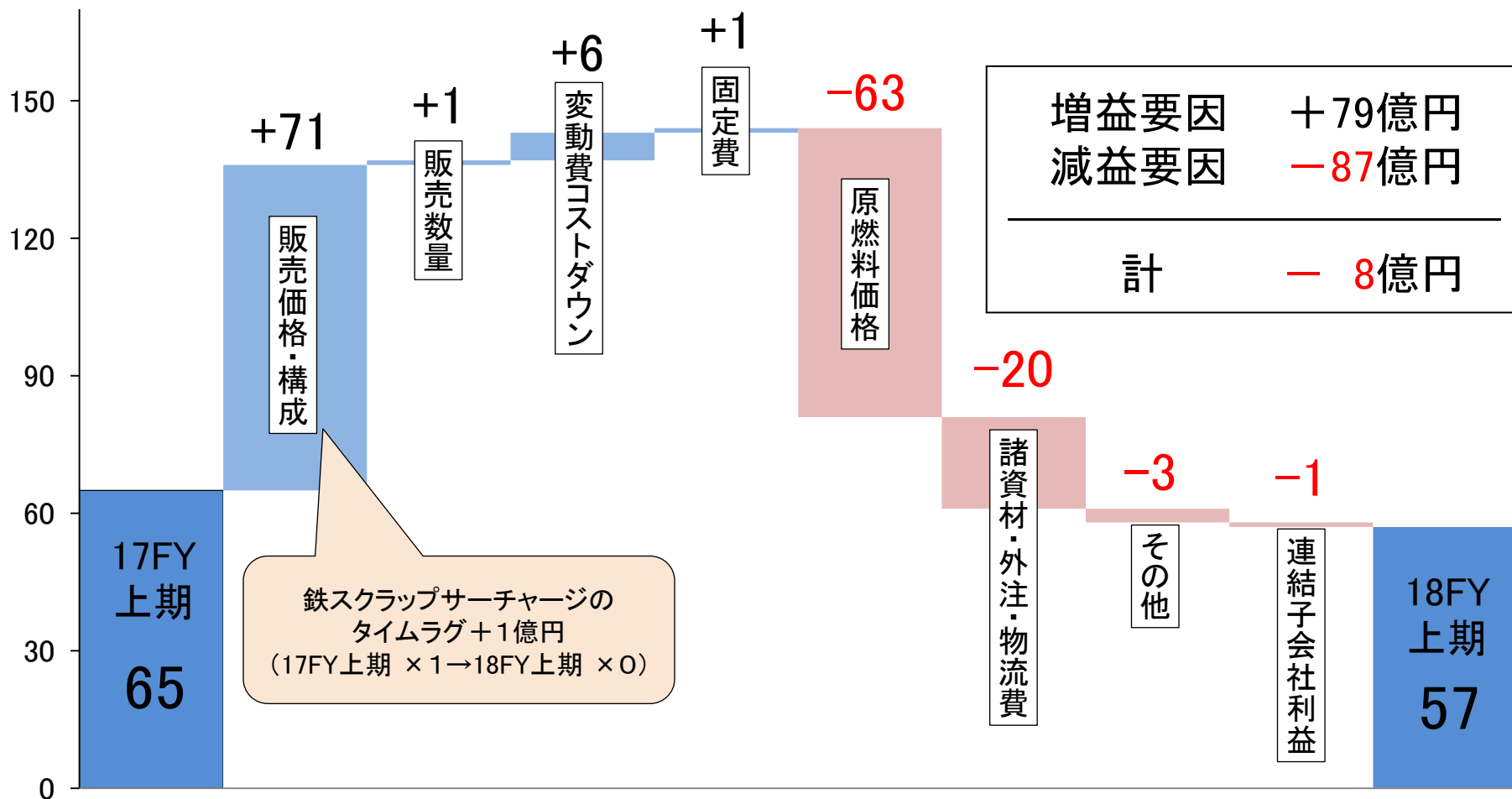
業績推移(四半期)



経常利益の変化要因

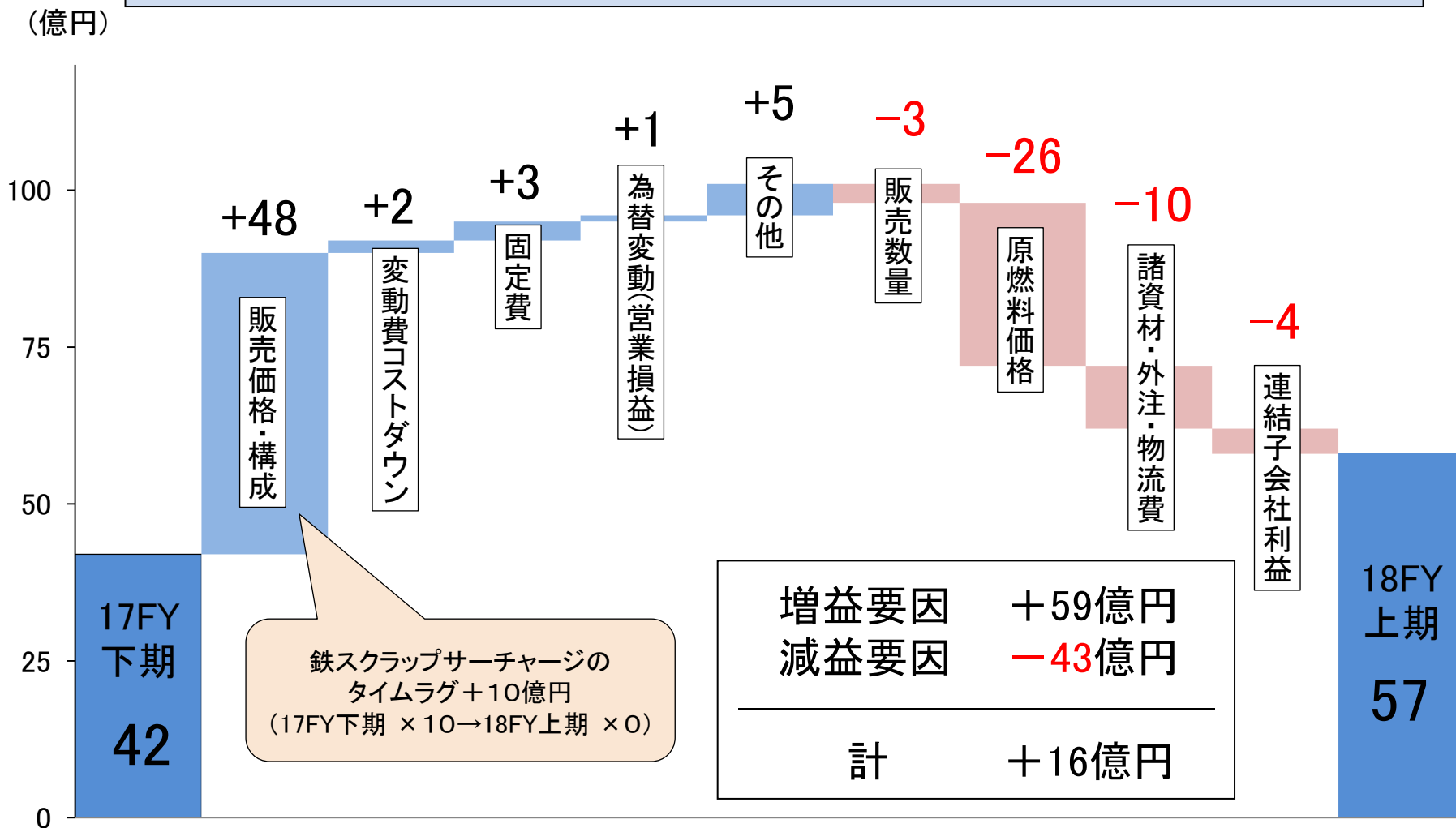
2017FY上期(65億円) → 2018FY上期(57億円)(**-8億円**)

(億円)



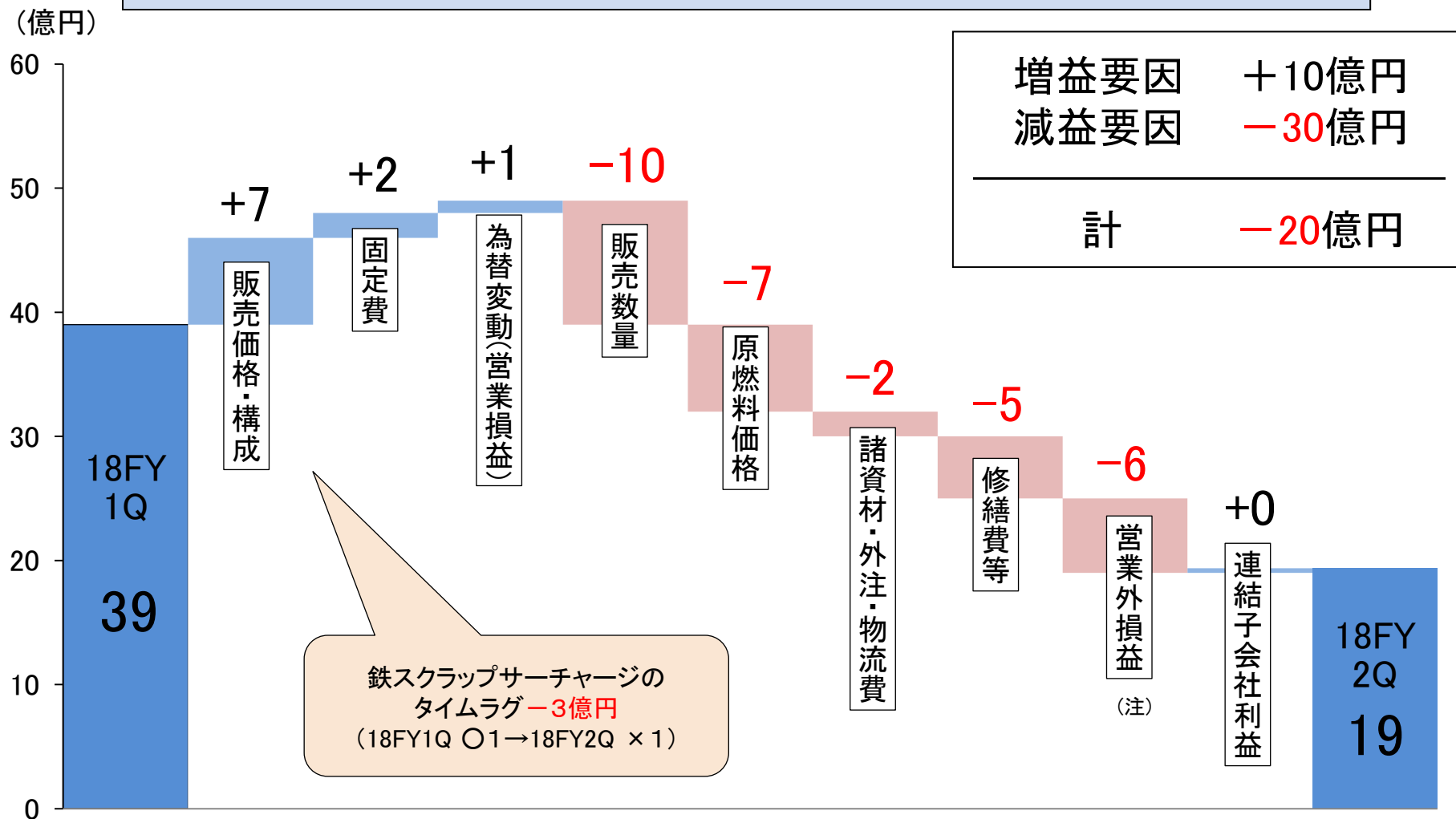
経常利益の変化要因

2017FY下期(42億円) → 2018FY上期(57億円)(+16億円)



経常利益の変化要因

2018FY1Q(39億円) → 2018FY2Q(19億円)(**-20億円**)



(注)株式取得関連費用-2、受取配当金・支払利息-3

セグメント別損益

(単位:億円)

	2018FY上期(A)			2017FY上期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)
鋼材(注)	821	50	6.1	684	56	8.2	+136	-6	-2.1
粉末(注)	24	4	15.1	24	5	21.6	+0	-2	-6.5
素形材(注)	99	4	3.9	89	5	5.1	+10	-1	-1.2
小計	943	58	6.1	797	66	8.2	+146	-8	-2.1
その他	7	0	1.4	7	0	0.2	-0	+0	+1.2
調整額(注)	▲53	0	—	▲44	1	—	-9	-0	—
連結計	897	58	6.5	761	66	8.7	+137	-8	-2.2

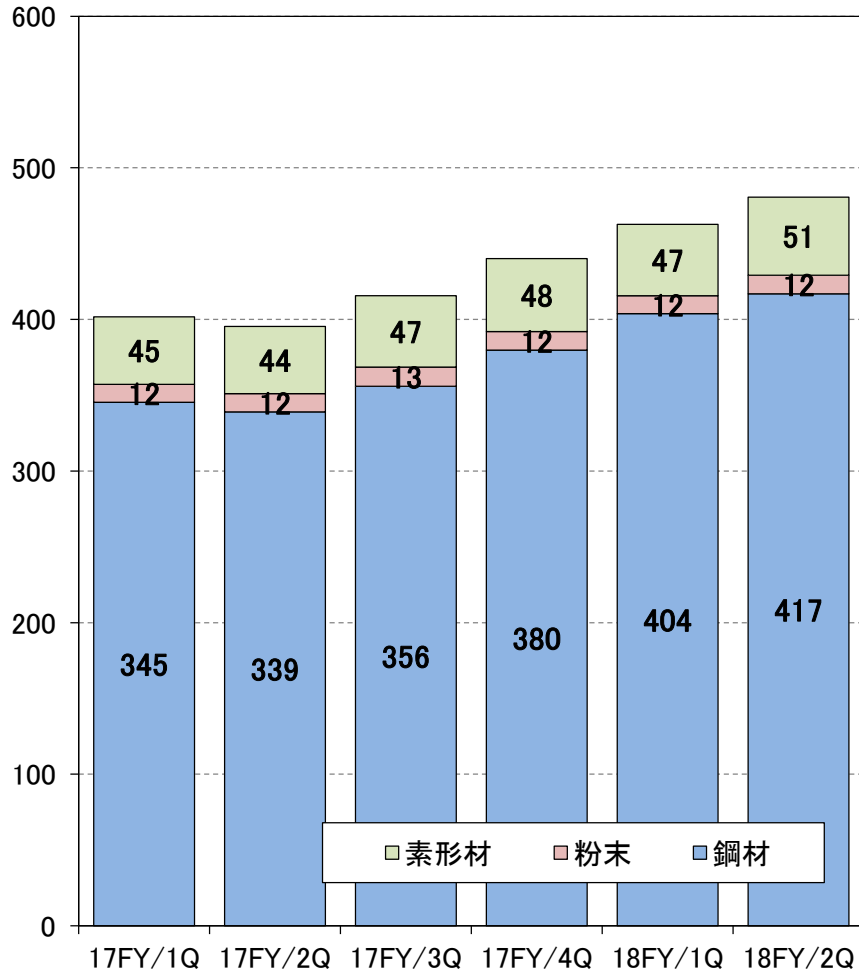
(注) 2018FYより、管理方法の見直しに伴い、「調整額」に含めていた棚卸資産の調整額を各報告セグメントの営業利益に配分。

2017FYのセグメント情報についても、変更後の算定方法に基づき記載。

セグメント別損益推移(四半期)

(億円)

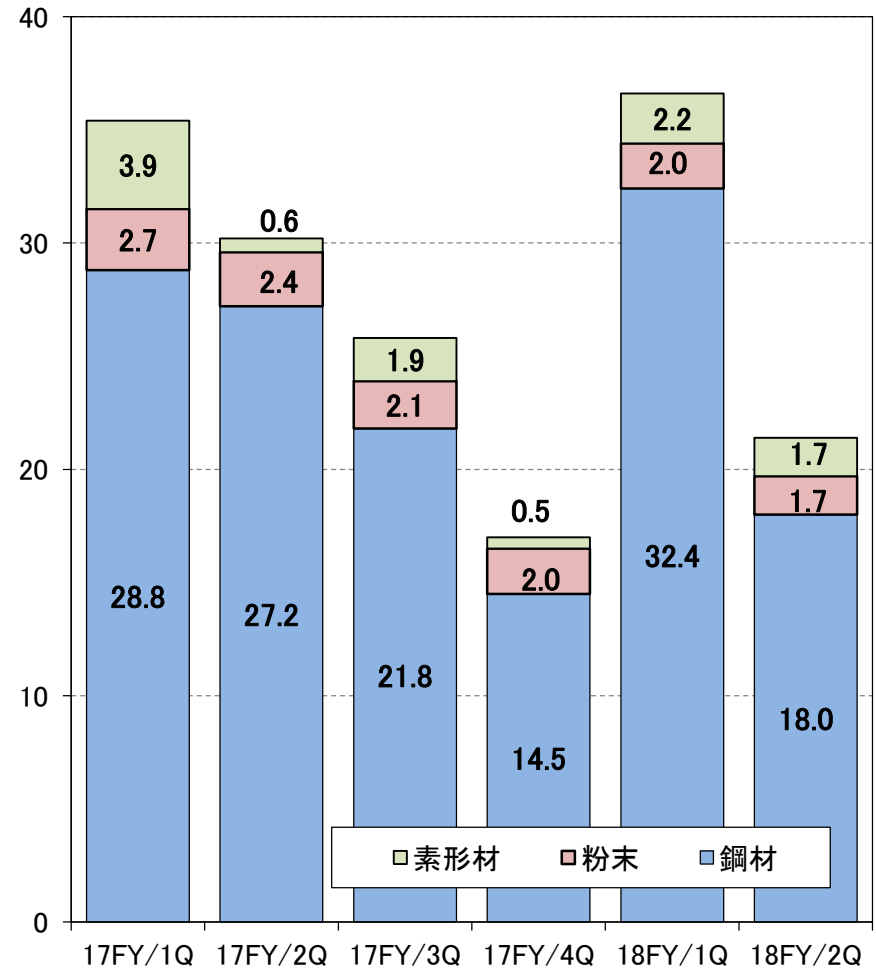
セグメント別売上高推移



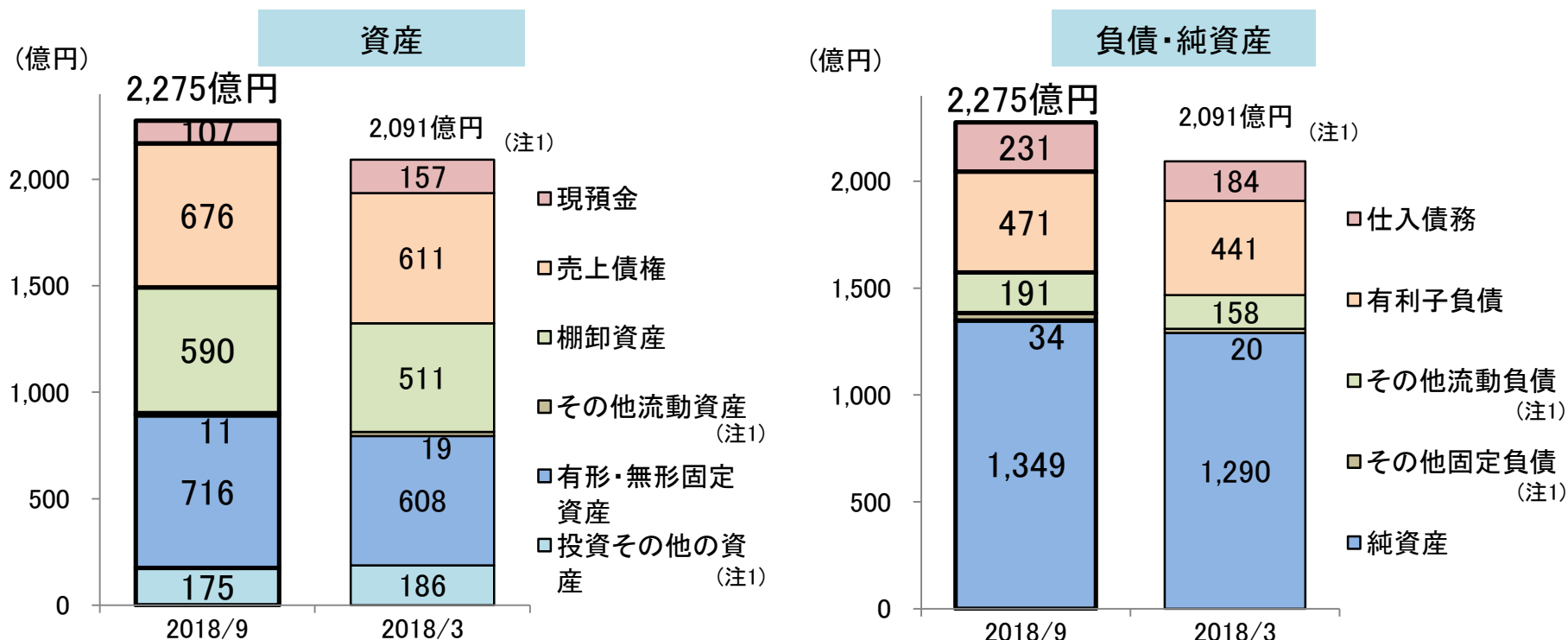
(注) 内部取引等を含む。

(億円)

セグメント別営業利益推移

(注) 内部取引等を含む。
管理方法の見直し後の数値で記載。

貸借対照表



資産の主な増減 +184億円

現預金	- 50億円	: 借入金の返済(単体)
売上債権	+ 66億円	: 売上高の増加 +15億円(単価差異 +32億円、数量差異 -18億円)、新規連結影響 +46億円等
棚卸資産	+ 78億円	: 原燃料・諸資材価格上昇 +34億円(単価差異 +39億円、数量差異 -7億円)、新規連結影響 +40億円等
有形・無形固定資産	+108億円	: 新規連結影響 +79億円

負債・純資産の主な増減 +184億円

仕入債務	+47億円	: 新規連結影響 +35億円
有利子負債	+30億円	: 借入金の返済(単体)による減少 -18億円、新規連結影響による増加 +48億円
純資産	+59億円	: 四半期純利益計上による利益剰余金増、新規連結影響 +24億円等

(注1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正等を2018FYから適用しており、2017FYについても、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載。

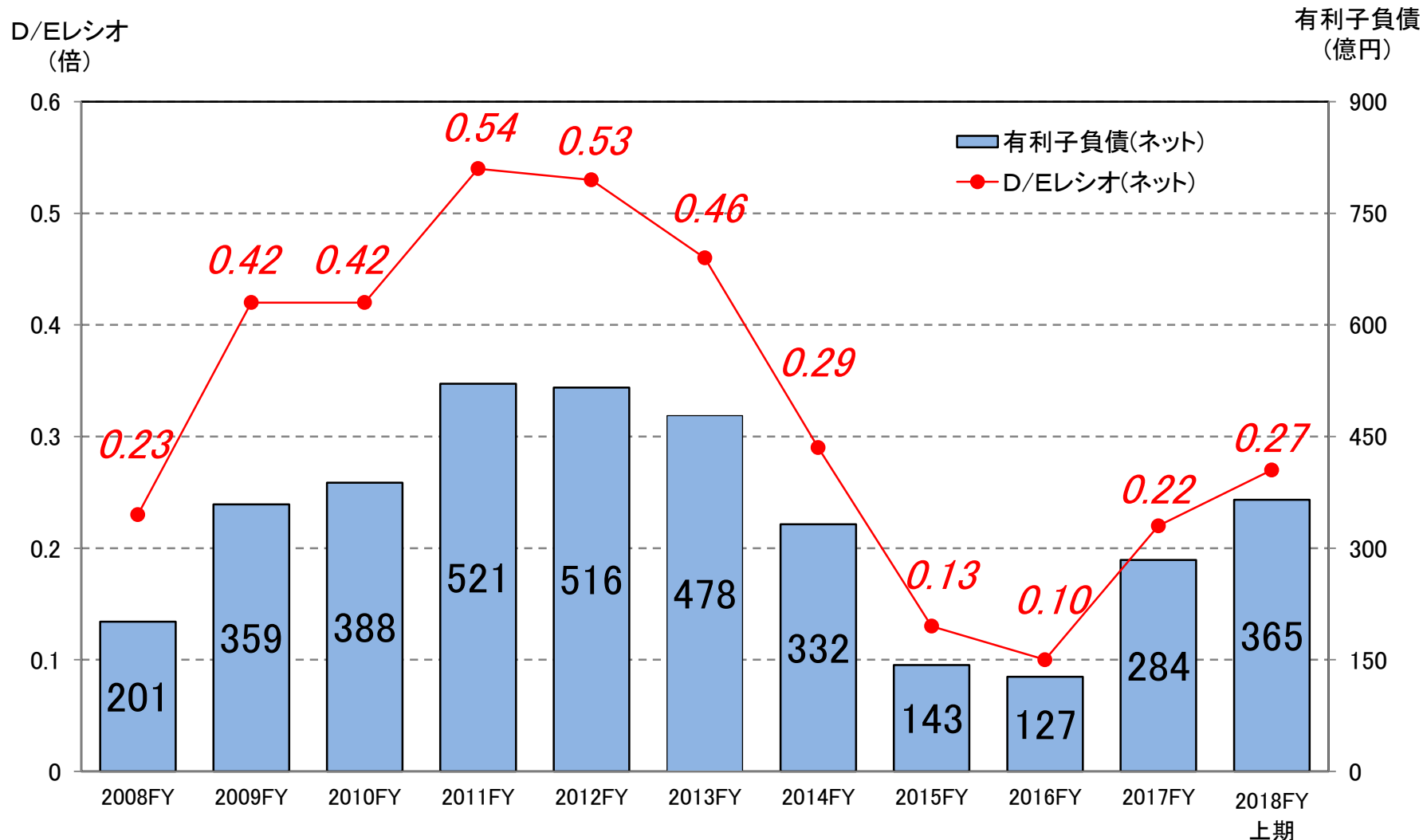
(注2) 新規連結影響は、2018年6月に子会社化したインドのMahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd. (MSSSPL)に係るものであり、影響総額は、約142億円。

キャッシュ・フロー計算書

(億円)

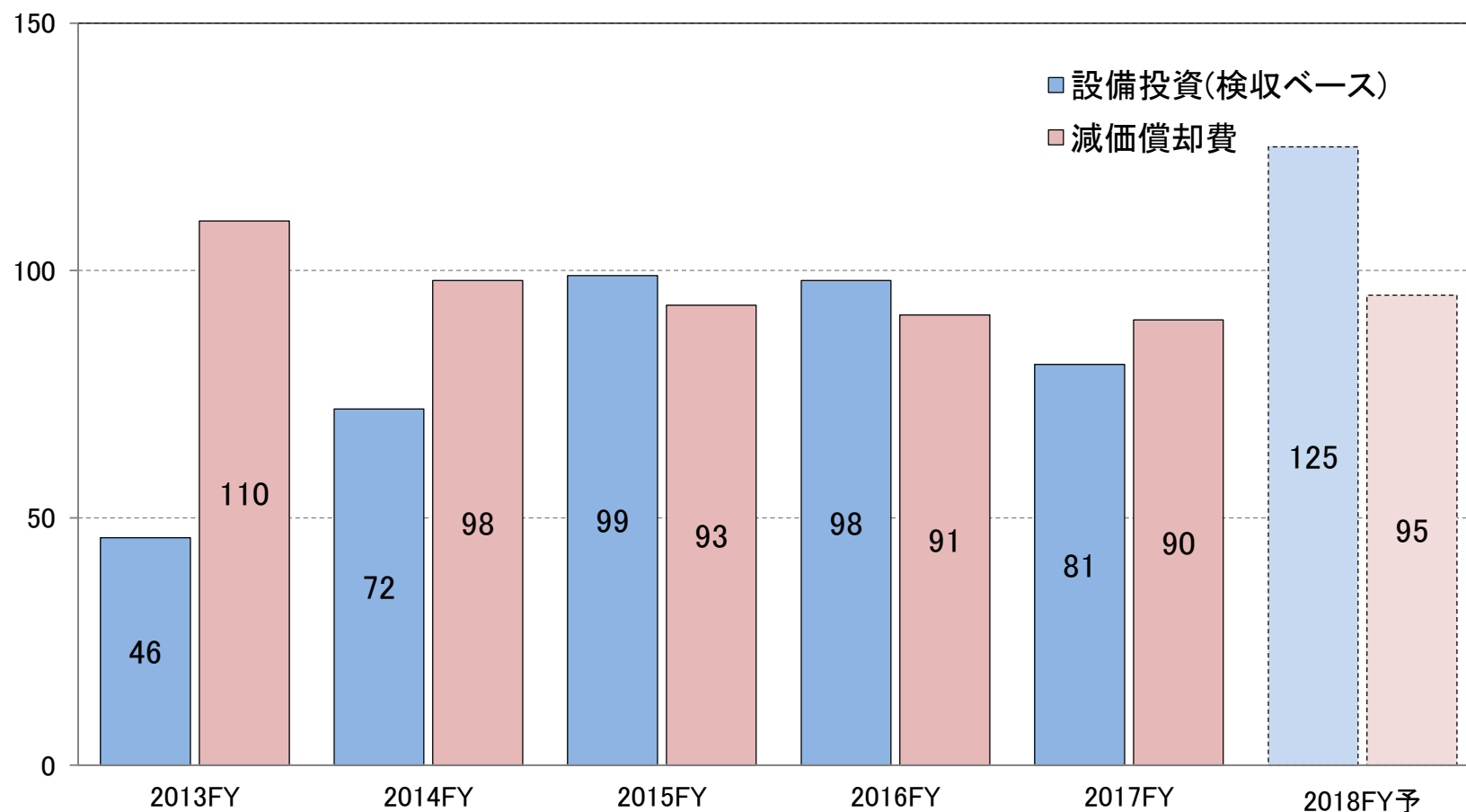
	2017FY上期	2017FY下期	2018FY上期
営業活動によるC/F (A)	△56	0	33
税金等調整前当期純利益	63	40	68
減価償却費・のれん償却額	43	48	45
法人税等の支払または還付	△18	△19	△15
運転資金等	△143	△69	△65
投資活動によるC/F (B)	△44	△40	△55
設備支出	△43	△37	△38
その他	△1	△2	△18
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	△100	△40	△22
財務活動によるC/F (C)	62	85	△20
借入金・社債・CPの増減	70	96	△12
自己株式の取得または売却	△0	△0	△0
配当金の支払	△12	△11	△8
その他	4	0	△0
換算差額 (D)	2	△2	△2
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△36	43	△44

D/Eの推移



(参考)設備投資・減価償却費の推移

(億円)



2018FY業績予想

(単位: 億円)

	18FY上期 実績(A)	18FY下期 予想(B)	2018FY通期 (C)=(A)+(B)		2017FY (D)		対2017FY (C)-(D)	
	金額	金額	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)
売上数量 (単体+MSSSPL) (千t/月)	95.2	104.5	99.9		89.1		+10.8	
(内 単体)	88.6	91.5	90.1		89.1		+1.0	
売上高	897	953	1,850	100.0	1,575	100.0	+275	+17.5
営業利益	58	42	100	5.4	110	7.0	-10	-8.8
経常利益	57	38	95	ROS 5.1	107	ROS 6.8	-12	-10.9
当期純利益(注2)	51	29	80	4.3	70	4.5	+10	+13.7

(注1) 2018FY通期の業績予想については、2018年8月2日公表値を据え置き

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

主要前提

- ・鉄スクラップ 38.0千円/t (姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 75\$/BL
- ・為替 110円/\$

配当について

	2018FY 中間	2018FY 期末予想	2018FY 年間予想	(参考) 2017FY実績
当期純利益(注3)	51億円	29億円	80億円	70億円
1株当たり純利益 (注4,5)	157.1円	89.8円	246.3円	218.3円
1株当たり 配当金(注4)	45.0円	26.5円	71.5円	58.5円 (中間33.5円、期末25.0円)
配当性向(注5,6)	28.6%	29.5%	29.0%	26.8%

(注1) 2018FYの配当予想については、2018年8月2日公表値を据え置き

(注2) 2018FY中間配当の効力発生日は、2018年11月30日

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

(注4) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。2017FY実績は、当該株式併合を踏まえて換算。

(注5) 2018FY予想については、2019年3月28日実施予定の第三者割当増資を考慮した期中平均株式数により算定。

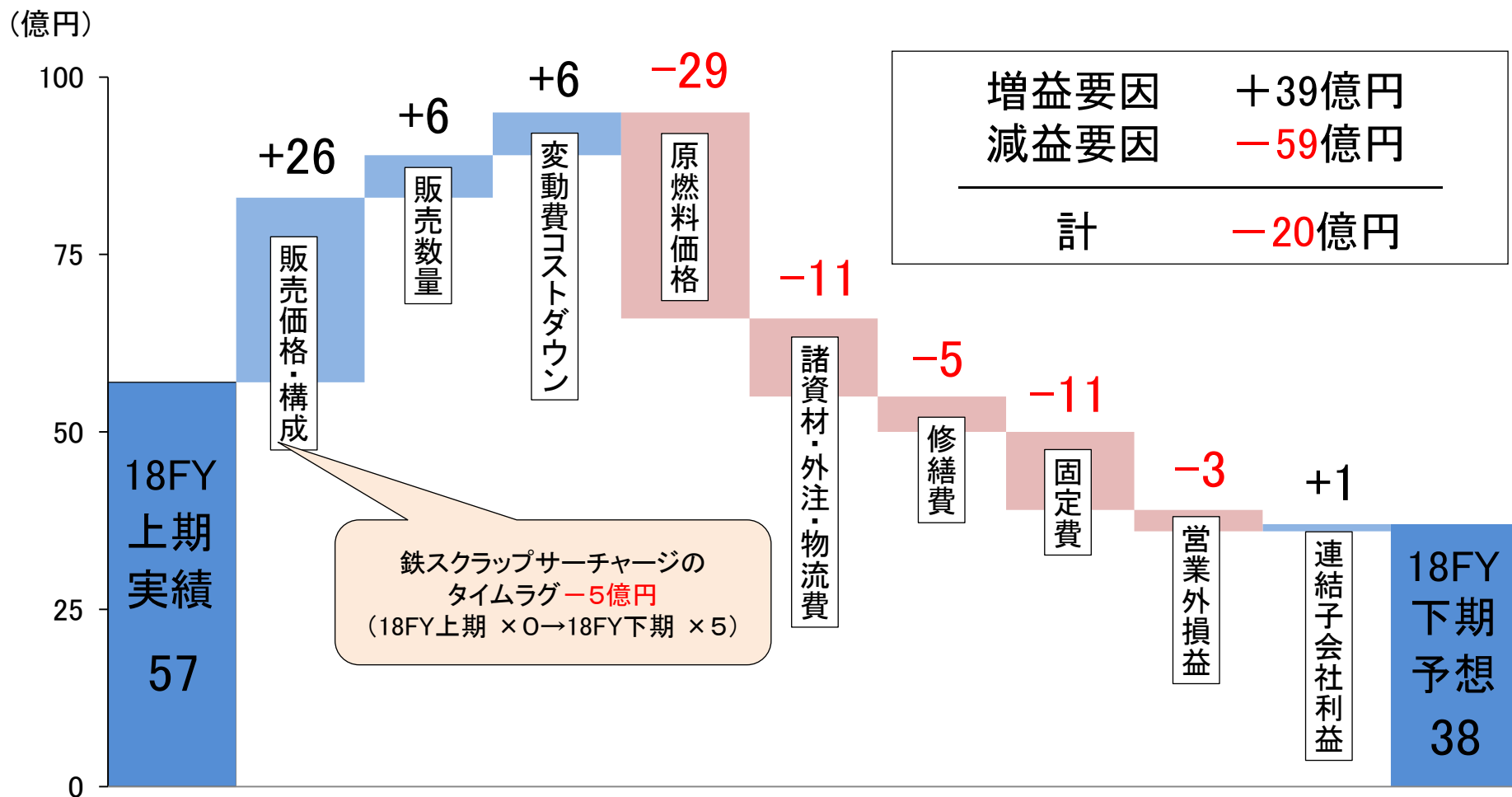
(注6) 配当性向は、1株当たり年間配当金を1株当たり当期純利益で除して算定した値を記載。

<配当方針>

連結配当性向25～30%程度を基準とする

経常利益の変化要因

2018FY上期実績(57億円) → 2018FY下期予想(38億円)(**-20億円**)



財務指標の推移

		2013FY	2014FY	2015FY	2016FY	2017FY	2018FY 上期
ROE(自己資本当期純利益率)(注1)	%	4.1	6.1	6.6	6.6	5.6	7.7
ROS(売上高経常利益率)	%	4.2	5.7	7.7	8.5	6.8	6.4
ROA(総資産経常利益率)(注1,2)	%	3.4	4.8	6.0	6.5	5.4	5.2
自己資本比率(注2)	%	50.2	55.8	62.4	66.7	61.0	57.6
有利子負債(ネット)	億円	478	332	143	127	284	365
D/Eレシオ(ネット)(注3)	倍	0.46	0.29	0.13	0.10	0.22	0.27
1株当たり当期純利益(注4)	円/株	126.0	203.0	230.0	241.5	218.3	157.1
1株当たり純資産(注4)	円/株	3,167	3,498	3,483	3,797	3,961	4,066
期末従業員数(注5)	人	2,775	2,706	2,625	2,598	2,666	3,768

(注1) 2018FY上期については、利益を年換算している。

(注2) 税効果会計に係る会計基準の一部改正等を2018FYから適用しており、2017FYについても、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載。

(注3) 有利子負債から返済に充当可能な現預金を差し引いた純有利子負債の、純資産に対する比率。

(注4) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

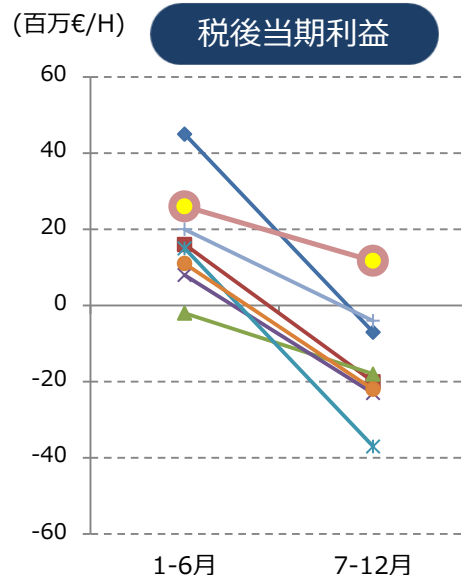
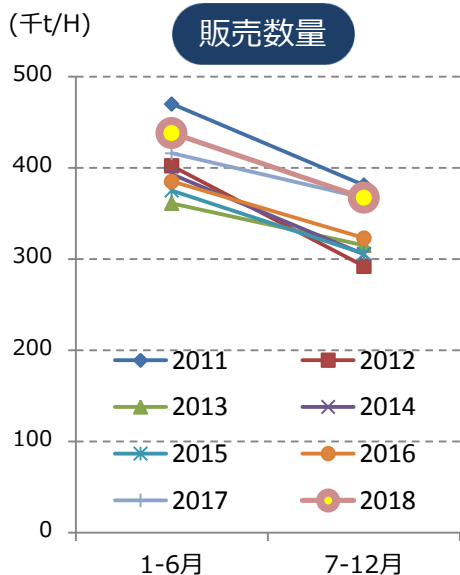
(注5) 2018FY上期については、2018年6月にMSSSPLを子会社化したことによる増加。

その他のトピックス

(1) OVAKO社の2018年度見通し

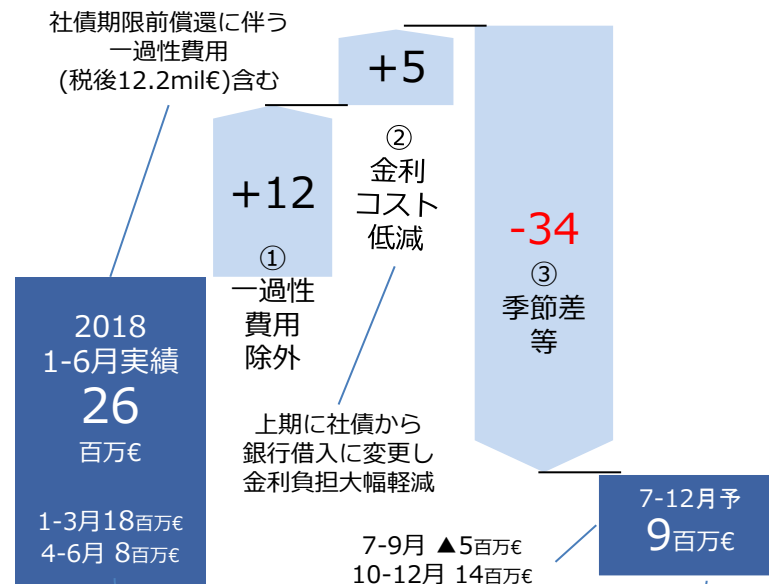
- ・OVAKO社の通期の税後当期利益は35百万€となる見込み。上期は26百万€であったが、下期は定修実施等にもなう数量減・コスト増により減益となる。
- ・構造ベースのOVAKO社税後当期利益は、上期計上の一過性費用や金利コスト削減効果を考慮すると52百万€(約64億円)となる。

■ 上期→下期 季節差(注)



(注)新日鐵住金(株)作成資料より抜粋

■ 2018年度見通し当期利益(注)



2018年度見通し税後当期利益 35百万€
構造ベース 52百万€(35+12+5)≒64億円

2019年度以降、シナジー効果発現

(注)新日鐵住金(株)作成資料より抜粋

その他のトピックス

(2)第41回日本金属学会「技術開発賞」を受賞

- ・高強度高靱性ダイカスト金型用鋼「QDX-HARMOTEX[®]」の開発について、通算9度目となる日本金属学会の技術開発賞を受賞。
- ・炭化物の種類と量が特性に及ぼす影響に着目し、組成や分布、均質性を最適化する合金設計および製造プロセス設計により、従来鋼を上回る特性を実現。
- ・2018年9月の日本金属学会・秋期講演大会にて授与式があり、受賞講演を開催。
- ・QDX-HARMOTEX[®]の特長
 - 1) 析出炭化物を制御し優れた高温強度を発揮
 - 2) 合金成分と製造条件の最適化により靱性を向上
 - 3) 上記特性により金型使用時における表面のき裂(ヒートチェック)や大割れを抑制



※ 日本金属学会 技術開発賞

創意あふれる開発研究を推奨する目的で、金属工学ならびにこれに関連する新技術・新製品などの独創的な技術開発に携わった技術者に対し授与される。

※ ダイカスト(Die Casting)

溶融状態の金属を、高速・高圧で金型に注入し、迅速に凝固させることで成形する鑄造方法。



特殊鋼の技術で、 世界の人を支えたい。

グローバルな視点でものづくり。  山陽特殊製鋼株式会社

www.sanyo-steel.co.jp

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)